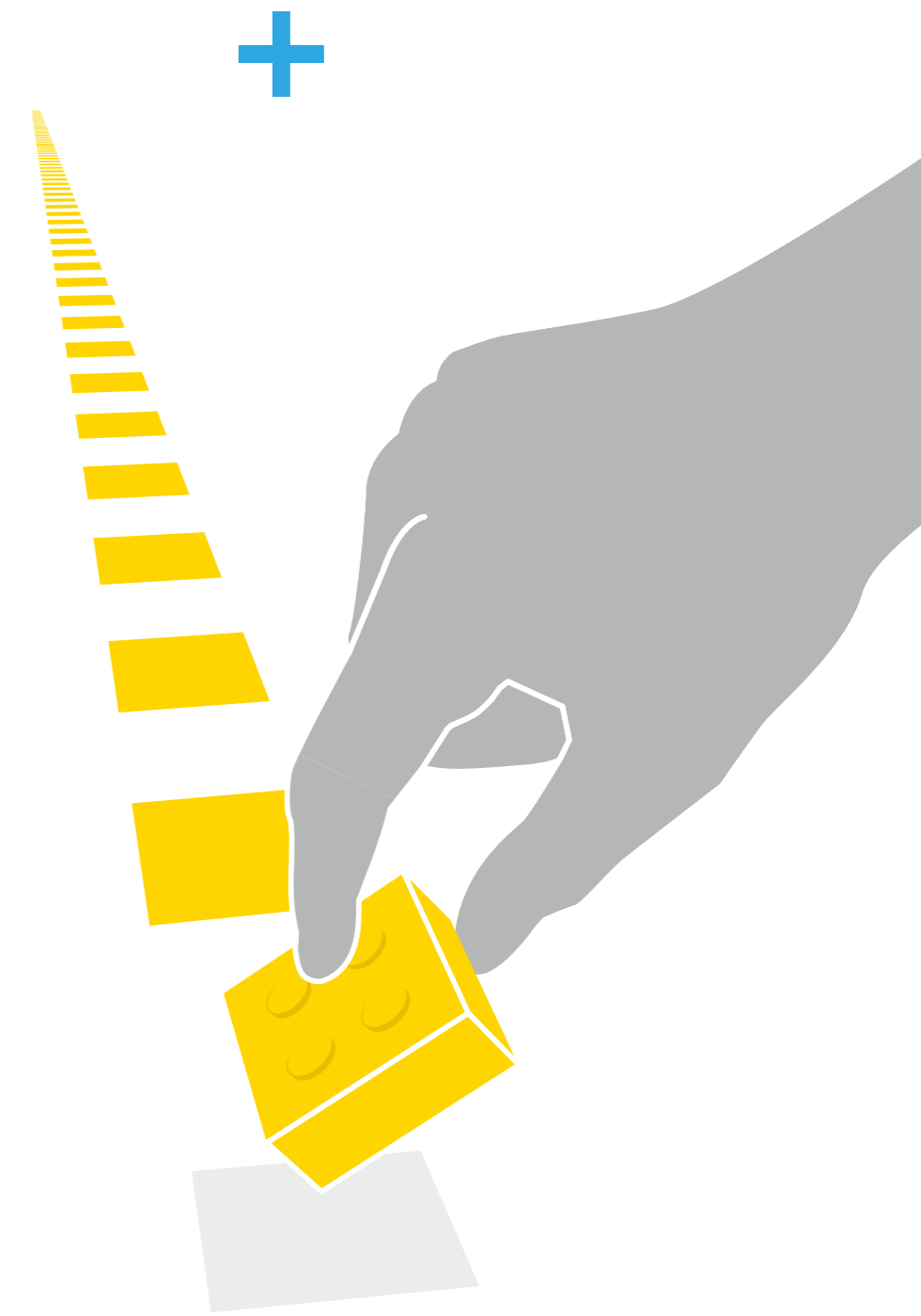


KYOTO UNIVERSITY
CAMPUS ACCESSIBILITY
REPORT 京都大学 キャンパス アクセシビリティ レポート

 CAMPUS
ACCESSIBILITY
REPORT

 学生総合支援センター
障害学生支援ルーム
Disability Support Office





KYOTO UNIVERSITY

**CAMPUS ACCESSIBILITY
REPORT**

京都大学 キャンパス アクセシビリティ レポート

CAMPUS ACCESSIBILITY REPORT の考え方

アクセシビリティレポートは、京都大学が社会におけるバリアフリー状況を理解し、京都大学吉田キャンパス本部構内での現状を整理することで、本学におけるバリア・ポイントを顕在化し、気づきに繋がります。

京都大学としての理念や指針など目指すべき方向を提言としてレポートにとりまとめ、全学にむけて発信し、より良い大学環境づくりを目的としています。

Contents

はじめに	
プロジェクトのねらい、目的	4
基本事項	
京都大学の現在の状況	6
社会の状況	8
ユニバーサル・キャンパスに向けた取り組み	
1 Barrier Report	
吉田キャンパス [本部構内] アクセシビリティ調査	10
2 VOICE	
アクセシビリティ座談会	20
3 GP <small>グッドプラクティス</small> 紹介	
フリーアクセスマップで環境が向上した場所	24
4 Working Group	
ワーキンググループでの会話から	26
おわりに	
キャンパス アクセシビリティレポートへの期待	28

より使いやすい大学を
つくっていくために、
ずっと努力、工夫を続けていこう。



はじめに

京都大学では、「本学全ての構成員、来訪者＝多様な人々」が「安心して移動や利用ができ、一緒に学べる」ユニバーサル・キャンパスを目指したいと思っています。

本学のキャンパスにおけるバリアフリー化を実現するために、建物／施設の建築・整備・改修の際、期待される「性能の向上」を目指し、エンドユーザー目線で人とモノとの関係性の改善やバリアフリーに対する基本的事項や理念をとりまとめ、より多くの方と共有することを目指します。



※アクセシビリティ（英：Accessibility）
 アクセスのしやすさのこと。情報やサービスなどがどれくらい利用しやすいか、とくに障害者や高齢者などが不自由なく利用可能かどうかの度合いを示すものである。より多くの人々が利用できる環境を、「アクセシビリティが高い」などと表現する。
 *日本大百科全書(ニッポニカ)解説より

基本事項 1 京都大学の現在の状況

障害のある学生の在籍状況

現在、障害学生支援ルームで正式に把握している障害のある学生は37名です(図1参照)。ただし、“正式に把握している”というのは“障害等により、修学上の支援が必要な者”であり、学生の所属学部等から障害学生支援ルームへ申請のあった人数にすぎません。障害学生支援ルームでは、これらの学生以外にも多数の個別相談があること、また、健康科学センターやカウンセリングルーム等で個別相談を行っていることなどをふまえると、この限りではありません。さらに、学内のリソースでは相談していないケースがあることも想定されるため、障害のある学生の人数を正確に把握することは困難です。しかしながら、何らかのニーズがある学生は少なからず在籍していることは事実です。

一方、障害のある教職員については、正式に把握されている障害のある学生の何倍も在籍しており、教職員と学生を合わせれば、200名程度の人数になります。

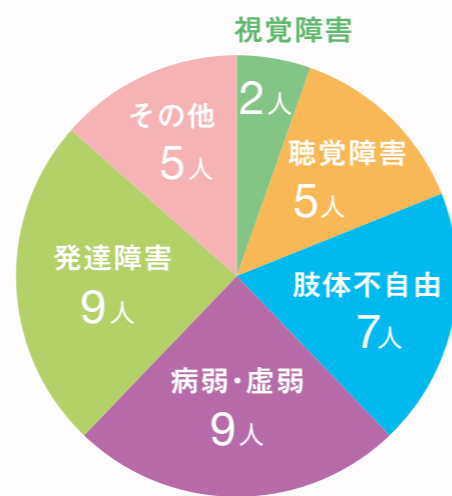


図1. 2014年度の在籍状況

多様性を受け入れるキャンパス

多様性を受け入れるキャンパスを目指す為には、人によって障害の種類、程度に違いがあることを理解した上で、施設(ハード)や人の対応(ソフト)の整備が必要です。

障害の種類



* 京都大学障害学生支援ガイドブック
TIP SHEET ~INTRODUCTION~より

つながりのあるバリアフリーへ

一般的に、日本の大学におけるバリアフリー化は充実しているとはいえません。ハード面のみならず、ソフト面、あるいは構成員の意識・理解という意味においても、現時点では不十分であると言わざるを得ません。

例えば、施設・設備等については、関連の法制度に従った建設・改修等が行われていますが、古い建物などを継続して使用している場合など、バリアフリー化がすすんでいるとはいえない状況が散見されます。とりわけ、国立大学では、その歴史や広大なキャンパスという事情から、バリアフリー化に関する課題は少なくありません。

また、一見、整っているように見える施設に関しても、実際には当事者にとって使いにくい状況がある場合もあり、計画段階からユーザーを意識したバリアフリーが求められるでしょう。例えば、キャンパスの交通事情との兼ね合い、また、スロープや点字ブロックの設置に統一した仕様・規格が無いため、“つながりの無いバリアフリー”になっているケースなどがあります。

教育機関における基礎的環境整備の一環として、バリアフリー化もその一部に位置づけられるものだと考えられますが、“つながりの無いバリアフリー”は結果として“使えないバリアフリー”になってしまう可能性もあるだけに、全体的な整備計画に基づいて整備することが望まれます。



基本事項2 社会の状況

バリアフリー整備に関して

平成14年7月に**ハートビル法**(高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律)が一部改正され、学校施設が新たにバリアフリー化の努力義務対象に位置づけられました。

また、**障害者基本計画(平成14年12月閣議決定)**において、建物・移動・情報・制度等のソフト／ハード両面で社会のバリアフリー化の推進が求められています。

平成18年12月には、ハートビル法と**交通バリアフリー法**(高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律)が統合・拡充した**バリアフリー新法**(高齢者、身体障害者等の移動の円滑化の促進に関する法律)が施行され、学校施設には以下の適合義務および、努力義務が課せられています。

参考資料・文献等

バリアフリー整備

- 国土交通省 バリアフリー基本構想作成に関するガイドブック (H20年)
- 文部科学省 学校施設のバリアフリー化整備計画策定に関する実践事例集 (H19年)
- 文部科学省 学校施設バリアフリー化推進指針 (H16年)
- 京都市建築物等のバリアフリーの促進に関する条例(整備マニュアル)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000105360.html>

理念的なもの

- 障害者基本法
<http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/kihonhou/s45-84.html>
- 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(略称：障害者差別解消法)
<http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai.html>
- 障害者の権利に関する条約(略称：障害者権利条約)
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/index_shogaisha.html

教育について、より具体的なもの

- 障害者基本計画(第3次)
<http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/kihonkeikaku25.html>
※3-3. が教育に関する項目。特に(3)では高等教育における施設整備を明記
- 障がいのある学生の修学支援に関する検討会報告(第一次まとめ)
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/12/1329295.htm
※(6)で、施設・設備に触れている

ユニバーサル・キャンパスに向けた取り組み

Barrier Report

吉田キャンパス [本部構内] アクセシビリティ調査

VOICE

アクセシビリティ座談会

GP グッドプラクティス 紹介

フリーアクセスマップで環境が向上した場所

Working Group

ワーキンググループでの会話から

バリアフリー新法における学校施設の取り扱い

特別特定建築物

特別支援学校、病院、体育館(一般公共用)、博物館、美術館、図書館等、不特定多数または高齢者、障害者等が利用する特定建築物であって、政令で定めるもの

特定建築物

学校、劇場、百貨店、ホテル、事務所等、多数の者が利用する建築物

※ 建築物特定施設(法第2条第18項、令第6条)
出入口、廊下等、階段、傾斜路、エレベーターその他の昇降機、便所等

2000㎡以上の
新築、増築等

既存の建築物等

基準適合義務

基準適合努力基準

特別特定建築物を除く
特定建築物の新築・増築

建築物特定施設※
の修繕または模様替

基準適合努力義務

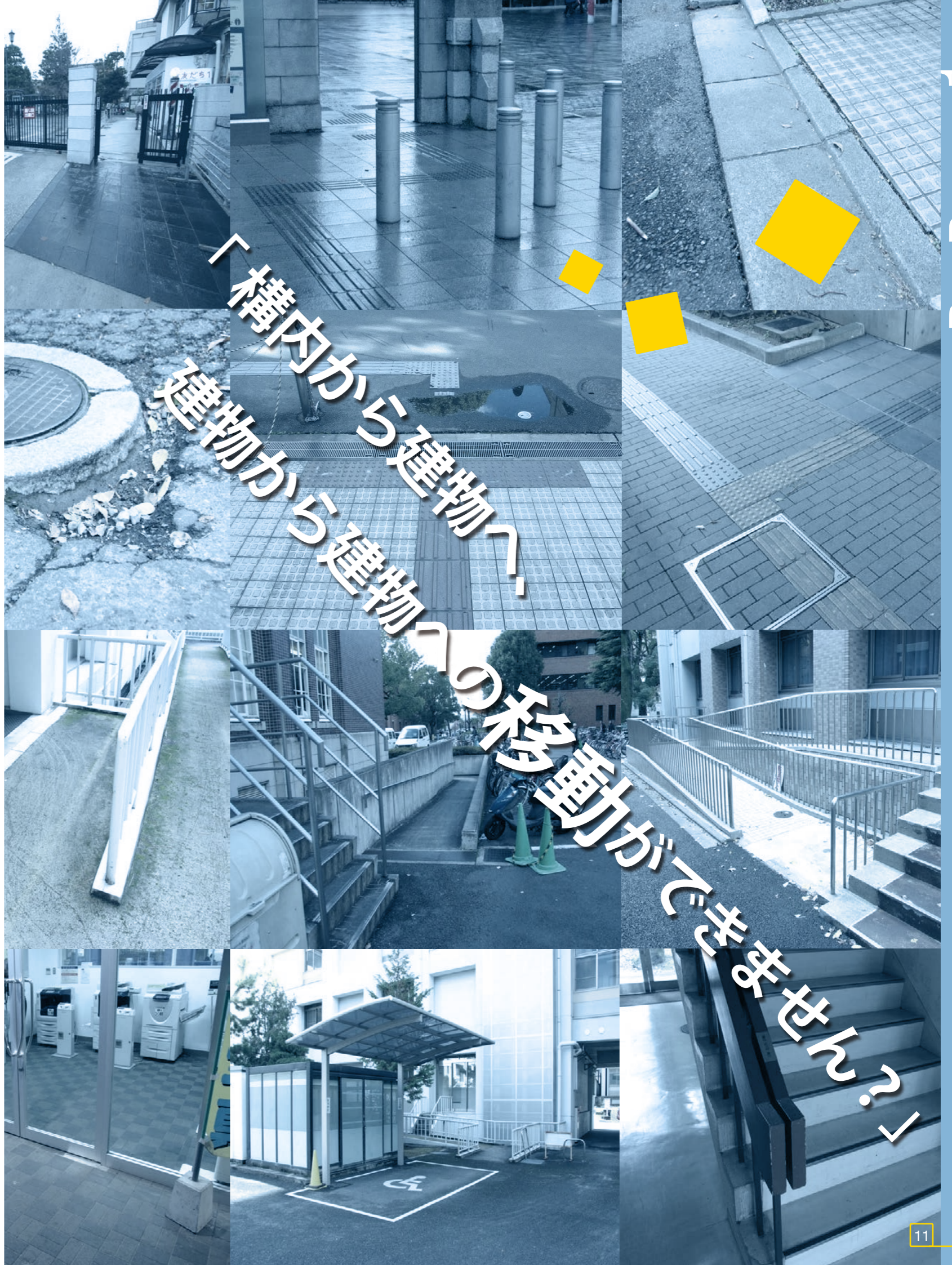
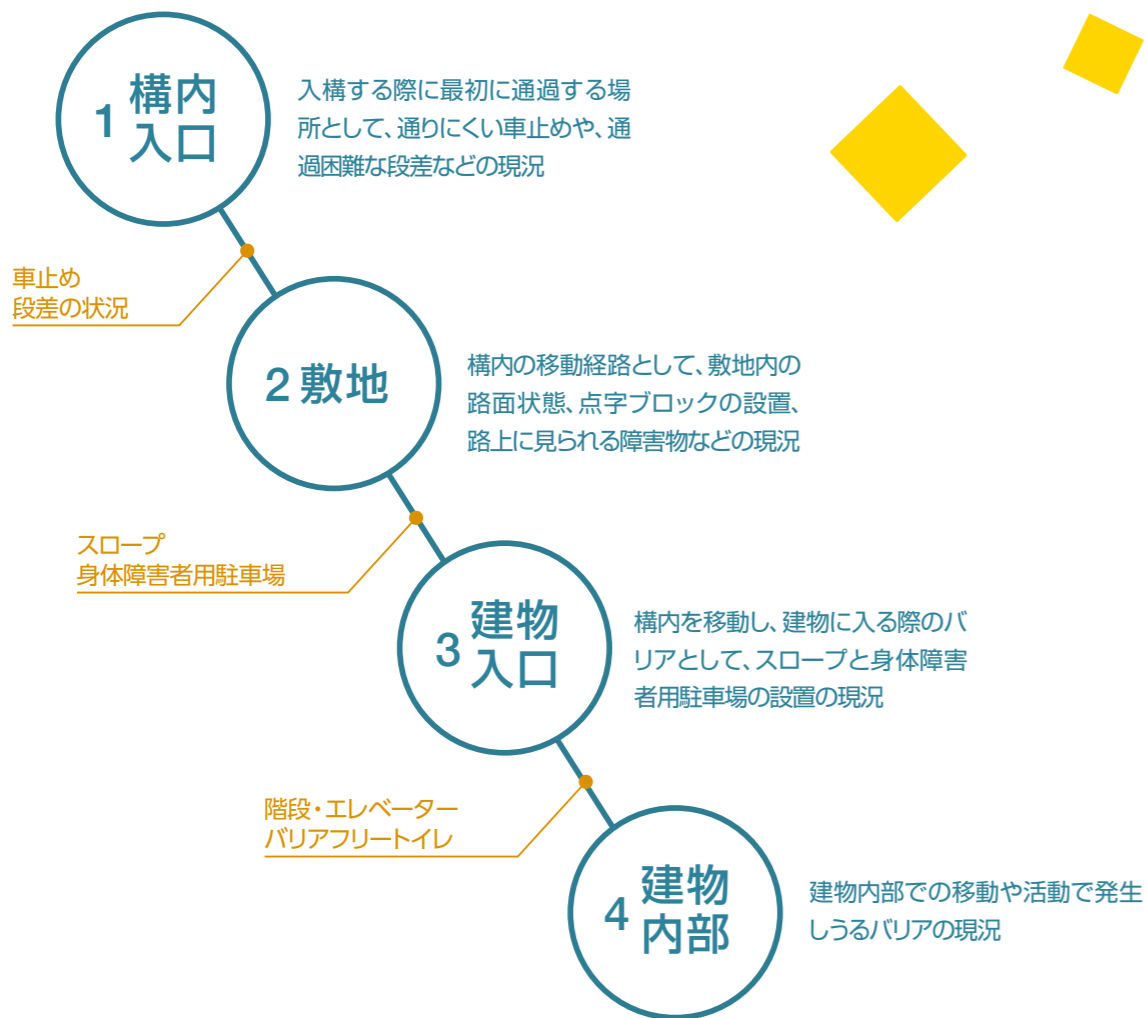
Barrier Report

吉田キャンパス[本部構内] アクセシビリティ調査

キャンパスでの移動におけるバリア

バリアは、構内での移動にともなって生じます。「多様な人が訪れた際にアクセスできる、つながるバリアフリーになっているのか」という視点で構内を巡りました。構内の移動を以下の4つのフェーズに分け、それぞれにフォーカスしてまとめました。

調査ポイント



1 構内入口

構内入り口付帯設備の状況

主要な入口は、視覚障害者対応、下肢障害者対応とにもよく整備されています。さらなる改善として、視覚障害者対応の遅れている通用口(特に北部構内への連絡口:北東門)の整備、弱視者対応状況の確認などが考えられます。

車止め

全般に見ると車止めは必要最小限になっており、視覚・下肢障害者のバリアにならないようになっている。



△北西端の入り口は歩行者専用で、太い車止めの間に看板があり、車椅子で通るには左右に回り込まなければならぬ。



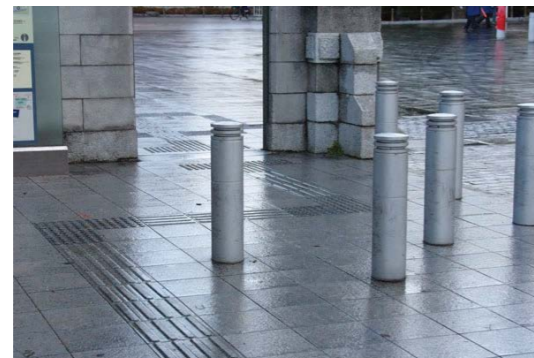
○自転車抑止の表示のついた車止め。車椅子は間をすり抜けられる。



○車椅子の通行に支障はない。反射テープが貼ってあるが、夜間の視認性についての有効性は疑問が残る。



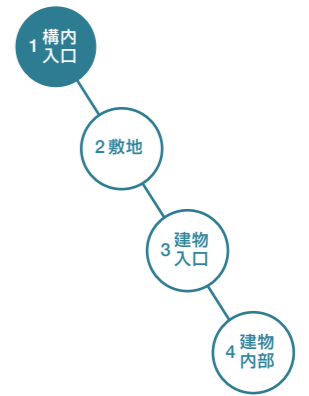
△点字ブロックと車止めが近いと、視覚障害者のつまずき、衝突が考えられる。



△歩行者用ゲートに車止めがあるが、あまり必要性を感じない。点字ブロックの誘導が曲折している。
△グレーの路面にシルバーの素材であまり目立たないので、弱視者の視点で検証する必要がある。
◎夜間発光式なので、夜間の視認性は高い。

凡例

◎: とてもよい例 ○: 良い例 △: 改善の検討が必要 ×: 早急な改善が必要



段差の状況



×敷地南東の、車出口の脇には歩行者用ゲートがある。ゲートの外側には段差がないが、構内に入った先に5cm程度の段差がある。
×点字ブロックは設置されておらず、バリアフリー化されていない。



◎門扉の走行レールが路面に埋込みのタイプで、車椅子の通行に支障がないよう配慮されている。



◎ゆったりしたスロープで、自転車の通行を抑止する掲示もあり、車椅子で安心して利用できそう。



×通用口的に使われている入り口では、点字ブロックは設置されていない。
○車椅子の通行に問題が生じるような段差はない。



バリアフリー化が限定されている事例



△本部棟脇の入口は階段のみ。点字ブロックは設置されているが、段鼻にすべり止めはなく、写真のように西日が差す状況では、弱視者には段差を視認しにくい。



△想定される利用者層を考慮してか、限定した対応にとどまっている入口もある。

2 敷地 構内の移動経路として、敷地内の路面状態、点字ブロックの設置、路上に見られる障害物などの現況

来訪者が通ると思われる主要動線については、点字ブロックの設置が行き届いています。一部、貼り付け施工の点字ブロックがはがれており、維持管理が今後の課題となる可能性があります。現在、点字ブロックが設置されていない主要動線以外の経路への設置について、設置すべき場所の洗い出しを含めた検討が考えられます。



路面状況



◎ 路面の段差は全般によく解消されている。目が細かく、白杖の先や車イスの車輪がはまらないようなグレーチングが、路面とほぼ面一に設置されている理想的な施工例が数多く見られた。

◎ ウッドデッキは、路面と同レベルになるような手間のかかる施工がされている



○ 通路となる場所では縁石の段差も最小限となるよう配慮されている。

○ 僅かな段差でも軽視せずスロープを設けている。

○ 点字ブロックが途切れないように設置されている。



× 応急的な措置か、鉄板が置かれている。

× 路面が陥没し、マンホールと段差ができています。

△ 雨後の調査を行って、水はけの悪い場所の洗い出しを図る必要がある。

快適な環境を形成する植栽も、バリアとなりうる

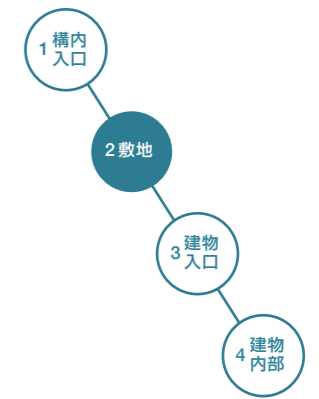
× 根が路面を持ち上げて激しい起伏を作っているため車椅子での通行は困難と思われる。



凡例

◎: とてもよい例 ○: 良い例 △: 改善の検討が必要 ×: 早急な改善が必要

また、弱視者に対する支援として点字ブロックの視認性を上げていくのか、全体的な色彩調和を優先するのかなどの検討も考えられます。路面は、ごく一部に水たまりや隆起・陥没などの劣化、急な傾斜などの課題が見られるが、全般には段差や障害物がよく解消されています。



点字ブロックの状況



△ 接着したタイプの点字ブロックは、経年劣化で剥がれることがあり、埋め込みが望ましい。定期的なチェック体制が課題。

△ 点字タイルの先に水たまりがあった事例。

△ 点字ブロックのある路面が陥没していて、足を取られる可能性がある。

メンテナンスが必要な点字ブロックは課題のひとつ！ つながるバリアフリーの視点が必要！

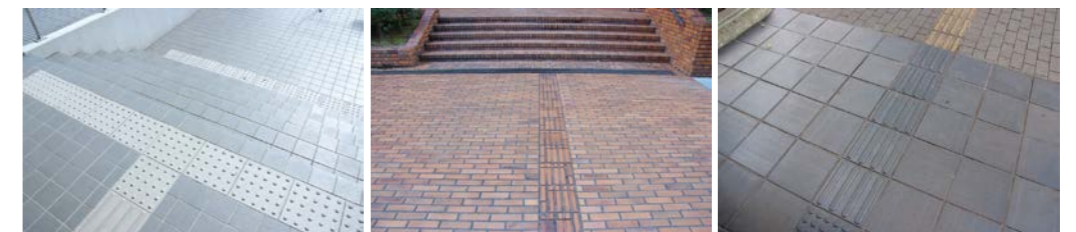


△ 場所により、点字ブロックの色や素材が異なっていて統一感がない。

△ マンホールが点字ブロックを切り欠いている事例。自転車置き場が近すぎて、はみ出した自転車との接触が考えられる事例。

△ 縁石が割れて凹凸が生じている。

見づらい点字ブロック



△ 敷地全般に路面と同系色の点字ブロックが使用されている例が多く、路面とのコントラストが少ない。弱視者にとってはコントラストが高いほうが良いというのが一般的。

3 建物入口

構内を移動し、建物に入る際の スロープと身体障害者用駐車場の設置現況

ほとんどの建物については、スロープ設置が行き届いていますが、タイルが剥がれたり、水がたまっているなどの維持管理上の問題がいくつか散見されました。古い建物でも、改修工事や仮設スロープの設置が進んでいます。今後は良好な環境の維持管理が課題となってくるのではないのでしょうか。

スロープの設置状況



△コンクリートで囲われ、多少圧迫感がある事例。
△斜度と経路長はトレードオフで、傾斜を緩やかにすると面積をとってしまう。

○いくつかの建物を除き、車椅子対応のスロープが全般に設置されていて、キャンパス全体のバリアフリー化対応状況は良好。

スロープに潜む問題



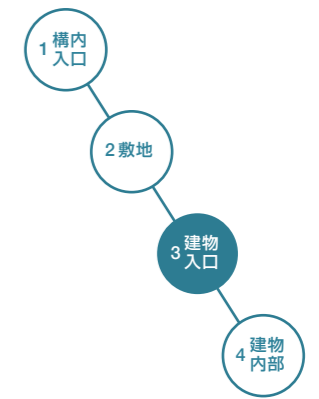
△昼間はよいが、夜間、真っ暗になっている例。コンクリートに囲われていて街灯光が入らず、**健常者でも足元が不安になる**。スロープにかぎらず、**夜間の照明状況のチェック**をしたい。
△スロープの**タイルが割れている**。



△スロープそのものは問題ないが、**その先の扉で段差がある**事例。
△水がたまり、**滑りやすくなっている**事例。

凡例

◎: とてもよい例 ○: 良い例 △: 改善の検討が必要 ×: 早急な改善が必要

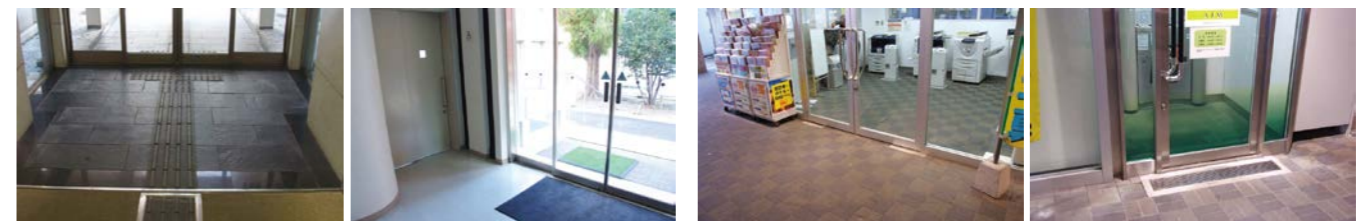


スロープが不完全な例



△応急的な仮設スロープで、斜度がきつかったり、不安定になっている事例。
×時間外通用口だろうか。セキュリティロックが高いところにあり、傾斜もきつく、開き扉なので車椅子では利用できない。
△脱輪した時のリスクを考えると車椅子の使用はためらわれる。
△スロープの一部の凹凸が激しく、登り口にも急な斜度が付いている。

その他エントランス周り



◎新しい建物では、主要なエントランスに自動ドアが設置され、段差も解消されていて、全般的にはバリアフリー化が行き届いている。
△段差は解消されているが、重量のある開き扉なので車椅子での利用は難しい。

身体障害者用駐車スペース全般



◎スロープ近くに設置されていて、**実際の使い勝手を考慮している**事例。身体障害者用駐車スペースが多数設けられていて、ドアを全開するためのスペースもしっかり確保、配慮がなされている。
◎雨よけのカーポートの設置例。スロープも隣接している。ただし、屋根がもう少し大きい方が望ましい。
△場所を入れ替えたほうが、ドアを開くスペースを確保できる。

4 建物内部

建物内部での移動や活動で発生しうるバリアとその解消事例

多くの建物にエレベータが設置されていますが、設置されていても全フロアにアクセスできるかは運用やレイアウトにも左右されています。一般利用の多い階段は視覚障害者対応が進んでいますが、一般利用者があまり利用しない階段では、必ずしも対策が進んでいるわけではありません。必要に応じて設置していると思われる。

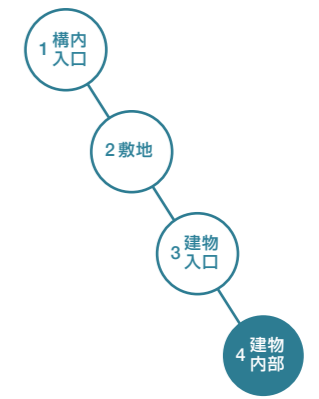
トイレの状況



- 新しい建物では、ほぼ各階にバリアフリートイレが設置されている。古い建物でもスロープを設置したものは、少なくとも一箇所のトイレを同時にバリアフリー改修している。
- バリアフリートイレが主要な建物に設置されている。
- 点字案内板と点字ブロックの整備もみられる。



- △ 黒字に赤・緑のピクトサインがあった。色弱者には認識しにくい可能性がある。カラーバリアフリー視点も重要ではないか。
- 古い建物でも、バリアフリー化改修で対応している例が多い。
- × バリアフリートイレのない建物もまだ残っている。



凡例

- ◎: とてもよい例
- : 良い例
- △: 改善の検討が必要
- ×: 早急な改善が必要

案内サインのカラーバリアフリー検証や、健常者でもわかりにくいもの(情報のバリア)になっていないかの検証も課題といえます。

階段全般の状況



- 階段の点字ブロックや、手すりの点字表記は、公共性の高い場所にはほぼ設置されている。一般利用の少ない階段では、どちらか片方か、どちらもない例が多い。一見したところ事故を誘発するような構造は見当たらなかったが、精査することは重要。

対応されていない階段



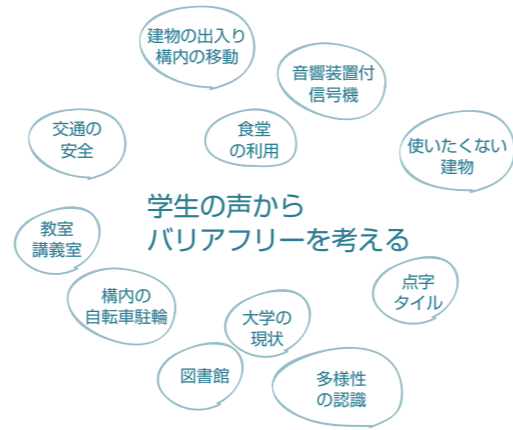
- × 一般利用の少ない階段では、視覚障害者対応されていない例も多い。

VOICE

アクセシビリティ座談会

ユニバーサルユニバーシティを目指して

京都大学のキャンパスにおけるバリアフリーの現状や課題について、実際に日頃キャンパスを利用している学生の皆さんから意見をいただきたいと思い座談会の開催にいたしました。



Members



岩隈 美穂
医学研究科 准教授
車椅子
Working Group Member



村田 淳
障害学生支援ルーム
チーフコーディネーター 助教
Working Group Member



安井 絢子
文学研究科 博士課程
視覚



西尾 宗一郎
理学部 学部生
車椅子



橋詰 健太
理学研究科 修士課程
車椅子



大原 調
農学部 学部生
点訳サークル



1. 大学の現状

村田: 早速、漠然とした質問ですが、学内の現状について困ったことはありますか？

橋詰: 例えば、西部構内のクラブボックスの話なのですが、エレベータはあるんですが、色々な部活の方が練習しているところを「すいません」と言って通らなければならないことが多いです。日常なことなので、気が引けて申し訳ないという気持ちになります。

また、**エレベータの稼働時間に制限**があって、その点が不便です。それに、エレベータホールや廊下にも荷物などが置かれていて、稼働時間内でも通れないこともあります。実は裏技があって、ルネの食堂が新しくなってからは、そっちのエレベータが夜遅くまで動いている。クラブボックスとは2階で繋がっているの、食堂部分から経由するルートは良くついています。

西尾: そっちから行けることを知りませんでした。良いこときました(笑)

村田: 確か橋詰君がクラブボックスを使うようになるまでは、エレベータの稼働は夕方までだったんです。我々も橋詰君から聞いてわかったのですが、その後、最大限時間を延長してもらうことはできました。それでも、管理上の都合で時間制限がある状態なんです。

岩隈: 実は、某食堂のトイレは**時間外になると車椅子専用のトイレが使えなくなる**。普通のトイレは使えるんですよ。何か事情があるんでしょうけど、何故か車椅子トイレだけが特別な対応をされている。

また、私は車を使うんですが、キャンパス内の車椅子専用駐車場に普通の方が駐車されているというケースも少なくありません。

村田: なるほど、エレベータにしても、トイレにしても運用上の問題ですね。折角整備されていても使えないものになっているケースもあります。

さらに、駐車の問題は基本的なルールの問題。

題。おそらく、悪気はないんですけど、**実際に必要な人がいるということ**を想定せずに使っているのだと思います。

岩隈: 思い出したのですが、某出入口ではある時間になると手動の柵がかかるんですね。電動のカーゲートと二重扉になるわけです。これでは、外に出ることができません。

村田: 正門横のゲートもある時間になると手動の**シャッターが閉まります**。守衛さんも立っていないので、こういう場合は困りますよね。

2. 建物の出入り、構内の移動

村田: 建物の出入り、構内の移動はどうでしょうか？

安井: 私は大学院なので移動する所が限られているというのと、食堂は混むので、自分で持ってくるスタンスにしているんです。実は、私の利用している建物では、去年くらいから廊下に傘立てを置くようになったんですよ。個人的には**非常に歩きづらい**です。特に、介助者と歩く時が非常に歩きにくくて、廊下の幅がそもそも狭いので。皆さんは傘立てがあると便利なんだと思いますけど・・・。

村田: おそらく、傘立てがバリア(障壁)になるかもしれないという感覚はもたれていないでしょうね。

3. 音響装置付信号機

安井: 構外の話になるんですが、夜になると百万遍の誘導音(音響装置付信号機)が止まるんです。確か、**7時か8時には止まる**。私は結構音を頼りにしているので困ります。

4. 点字ブロック

村田: 学内の点字ブロックについてはどう思いますか？

安井: 私はほとんど見えないのですが少し見えているので、**色のコントラストがあると助かります**。最近景観のことがよく言われるようになって黄色い点字ブロックを設置してくれない。**京大も黄色のブロックは少ない**ですよ。弱視の方など、コントラストで判断可能な方にとっては、はっきりとした色合いで作っていただいた方が便利になると思います。

村田: 現時点ではルールがあるわけではないんですが、安井さんのおっしゃることはごもっともだと思います。

村田: 点字ブロックの敷き方についてはどうですか？

安井: 敷き方はスタンダードですよ。一般的に、点字ブロックというのはどうしても遠回りにはなってしまいますが、それは仕方ないと思います。それより、車椅子

子の方と視覚障害の点字ブロックというのは意見がぶつかりますよね。橋詰君、西尾君は点字ブロックは邪魔じゃないですか？

橋詰・西尾: えーっと、どうですかね～・・・。まあそうですね。無いに越したことはないというのが本音です。

安井: やっぱ(笑) アクセシビリティの重なり合いですね。

村田: 大原君、点訳サークルでは以前学内の調査をされましたよね。どのようなことがわかりましたか？

大原: さっきのコントラストの話で言うと、図書館前はレンガ色の点字ブロックがあるんですよ。**埋め込みの物だと本当にわからないだろうな**と思います。あとは、**銀色の物が多い**気がするけど・・・。

全体では、**全然いらぬ所に敷いてある**ものもあります。

安井: ありますよね。これは何を表しているんだろうと思うものとか、行き止まりとか(笑)

大原: 事務室があるのかなと思ってたどると、事務室は建物の反対側とか(笑)

最初は使われていたのかももしれないけど、「変やな」と思いますね。

村田: 全く実際の利用を想定していないと思えるものも少なくありません。支援ルームとして声を上げていきたいのは、先ほどの色の

話も含めて、どこまで統一規格にできるかとはともかく、**使う人のことを考えて整備してほしい**ということです。もちろん、最低限のラインは考えないといけないですね。さらに、工事や行事で一時的にそのルートが通れない場合は、**ソフト面でカバー**していくしかありません。

5. 構内の自転車駐輪

安井: 車椅子の方、自転車は困りませんか？

西尾: 困ります。最近北部食堂の前を工事していてすごく道幅が狭くなりしばらく通れないときがありました。

橋詰: 工事するときには、別の場所に自転車駐輪が出来るようになっていれば、このようなことは避けられると思います。

岩隈: **自転車シェアリングはもっと進めばよいと思う**。あれをもっと推し進めていけばよいのでは？

村田: 電車に乗っている人が学内移動のために置いてある場合もある。シェアすれば台数はかなり減るような気がします。あとは、京大以外の方が駐輪していることもあるだろうから、その点は何らかの管理が必要だと思います。が、**障害のある人のためにだけでなく、多くの人のために良いもの**ができていくのではないかと思います。



ニーズがぶつかる点字ブロックとスロープ



自転車駐輪



壇上上がれないホール

6. 交通の安全

村田: 他の構内との移動も大変ですよ。特に休み時間など、限られた時間に人が集中しますからね。どうですか交通の安全に関しては、危険を感じたことはありますか？

西尾: 春って、特に大変です。

安井: 最初本当に戸惑いました。なんで自転車をどこかにかためて停めておかないんだろうと。

村田: 京大生は学内を自転車で移動するのはスタンダードなんですよ。一般的に車椅子の人と、自転車に乗っている人とは目線の高さが違います。例えば車椅子の人と自転車の人が1対1の場合はお互いを認識できるんだけど、自転車が複数来ている場合は完全に死角になるため怖いだろうなと思います。それも、**学内に車椅子利用者がいるという感覚があれば違うんでしょうけど**、それがまだ少ないのでそういうリスクが出てくると思います。**構内の自転車交通、自転車駐輪は、重要な課題です。**

大原: 自転車愛好者なので、**止める時に道が狭くなってしまいうのは、あまり意識出来てない所だった**ので、これからは気をつけたいいけないなと思いました。

7. 食堂の利用

村田: 食堂を利用するのは難しいという話もありましたが、詳しく教えてくださいませんか？

安井: 私は諦めてしまうというか、**休み時間が限られているなかで、混雑した場所でご飯を買ってきて、場所を確保して食べて、最後はセルフサービスで食器を返す。結局、その作業で時間が取られるのでお弁当を持ってきて食べる、というのが私のスタイルになってしまった。**

村田: 教職員だと時間をずらせますが、授業があるとそれも出来ませんね。例えばそれ以外、文房具や本を買う時はどうですか？

安井: 支援ルームの支援を利用して、サポーターの方と買いにいけます。

岩隈: **ランチを諦めるっていうのは、私もまったく同じです。**頭の上をラーメンが行き交うので(笑)

安井: 温かい物を食べたいですよ〜。

橋詰: 僕は食堂派です。学部のところから時間をずらす方を主体に考えていました。順番待ちの時に、ぶつからないように少し間隔を開けると並んでいるのが分かりづらくなる、そういう微妙なところが難しくて。人がいないときを狙って行きます。

西尾: 春は吉田食堂が混むので行ってなかったんです。**春の時期の人の多さが最大のバリアになっている**と思いますね。

8. 図書館の利用

橋詰: 図書館はあまり利用していません。高い所にある本を取るときはお願いしたいいけないので、毎回申し訳ないと思いつつ。願望としては何とか自分の力でできればいいなと思います。

西尾: ハード面で、移動で困るのはエレベーターがあるのでそんなないんですけど、**ソフト面で、図書館や生協で取りたいものが取れない**っていうのが一番頻度が高いです。どうしようもないっていうのもあるんですけど。

村田: それぞれの置き方を工夫するとか、それだと置ける商品量が限られてしまうのであればソフト面でカバーしていく必要がありますね。

岩隈: 私はほとんどオンラインで。場所によっては**入口のスロープが結構きつい**んですよ。あれを見るだけで「もういや」って気持ちになってしまう。**オンラインで取れるようになってると、時間はかかるが取り寄せてもらうので何とか間に合わせている。**

9. 教室・講義室

西尾: 4共(吉田南4号館)のエレベーターにアクセスする廊下とか、もう全然ダメ(笑)あと、吉田南構内は道がざらざらで気持ち悪いところがありますね。建物は入れても、教室は入れないこともあります。それに、休み時間内には移動できないような教室の設定で必修科目がある時は、支援ルームで教室の変更してもらったこともありますね。

岩隈: また、大学の教室の講義する場所が一段上がっている。学生が車椅子というのに配慮できていることはあるんですけど、**教壇が配慮されていることは少ないです。**

村田: 確かに教壇はそういう場所が多いかもしれません。実は、時計台ホールも舞台には車椅子でアクセスできないんです。

村田: **京大のアクセシビリティを良くするために、構内のアクセスがどうなればベストだと思いますか？**

大原: **外部から色々な人が来やすくなってほしい。学生のニーズだけではなく普遍的なことをやらなければならない**と思います。

村田: 外部とのつながりも大事ですよ。安井さんの百万遍交差点の話でもありましたが、構内だけが整備されるのではなく、構内と最寄りのバス停や駅のアクセスなどは考え

ないといけないですね。部分的に行われていてつながりがいいことは社会としての問題です。

10. 多様性の認識

西尾: 時計台の地下の購買、扉が重い…。時々手伝ってくれる人もいるが、残念ながらそういう人は多くないのが残念です。

村田: 障害がある人がいるのがまだ特例のような雰囲気を感じます。扉の話も経験値があれば当たり前のこととして出来る人が増えると思いますよ。そもそも、自動扉にするということも検討しなくてはなりません。

岩隈: 先ほど言われていた、**キャンパスだけよくなって**というのは私も思います。医学部の近くのある食堂では、入口に「車椅子が通れるように自転車を置いてください。」というようなことが書いてある。お店の人も親切。街の人にも「そういう人がいて当たり前」という気持ちが根付くのが良いのかなと思います。別にチャリティーをやっているわけではない。**お店としても、お客さんに来てほしいからやっている。様々な人をお客さんとして想定している**ということ。

11. 使いたくない建物

西尾: **一つの階の中で階段がある場所もある。**使いにくい所を避けるというよりも、使いやすいところをピツ

クアップして使っている。

橋詰: 絶対いける道の一つ見つけておく。この建物だとここから多少遠回りしても入れる。**友達と行くと、段差があって自分だけが行けなくて、引き返して別のルートで**ということもある。

岩隈: 入れればいいのだろうという気持ちなんだろうけど。使うときに「私だけこっから、また後で」ということが多い。もう少し心地よさがあれば良いと思う。**本来ならば教室と一緒に隣席に座れるはずが、私だけ別の裏口から入って、決められたスペースにいなくちゃいけない、たぶん友達と行動するとそういうことが多いんじゃないかな？**

橋詰・西尾: 確かにあります。なんだか、そういうことにも慣れてしまっていますけど。

村田: ハード面だけでなく、運用などソフト面のことも大切ですね。やはり、利用者を想定しきれていないというのが最大の課題だと感じました。誰にとっても完璧に使えるようにするという事は色々な課題がありますが、意識を少し変えるだけで随分状況は改善すると思います。今日の座談会も、そういった意識を多くの人にもってもらうためのきっかけにしたいと思います。

GP 紹介

グッドプラクティス

フリーアクセスマップで環境が向上した場所

フリーアクセスマップとは

京都大学フリーアクセスマップは、主に車椅子利用などで移動が困難な方の目線で作成したバリアフリーマップです。このマップは、目的地までのルートや設備の利用箇所を限定し指示するものではなく、それぞれのバリア(障壁)を分かりやすく表示することで、利用者が自らのスキルに合わせて「選択」できるマップです。これらの視点は、実際に車椅子利用者の意見を取り入れ、プロジェクトを進めていく過程で生まれました。構内の移動を考えたとき、実際にどのような情報を手に取りたいかを考えることが、このマップの原点となっています。独自のコンセプトを表現するために名称も「フリーアクセスマップ」としています。

マップ上に表記される建物やバリアの情報

アクセス

構内入口
大学構内への入口

建物入口
車椅子が単独で入りやすく、利用を推奨される入口

アクセススロープ
車椅子で入口へアクセス可能なスロープ

路面

坂路 (矢印方向が上り)
→→→ 車椅子が単独で、登ることができる坂 (矢印の間隔が短いほど登ることが困難)
→→→ 車椅子が単独で、登ることができない坂

傾斜 (矢印方向が下り)
VVV 路面の傾斜

悪路 (凹凸、砂、砂利、穴等)
車椅子の通行に弊害のある道路
車椅子の通行が不可能な道路

その他

段差
5cm以上の段差

柵・ボラード

自転車
駐輪場、または慢性的に駐輪が多い区域

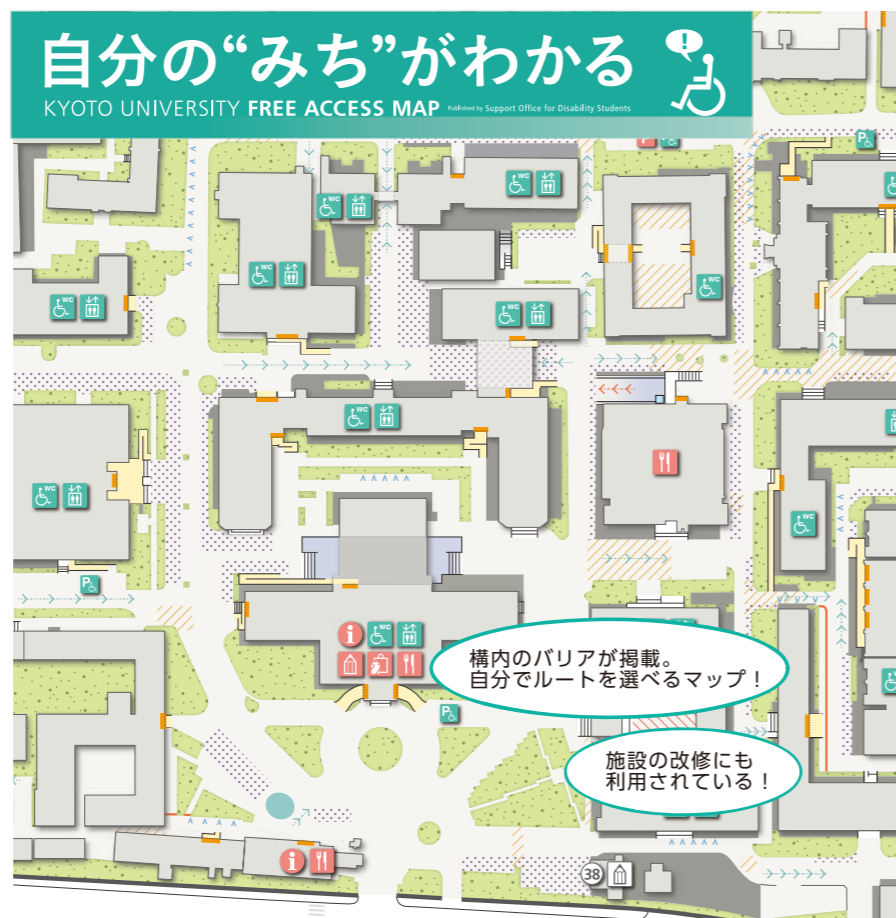
植栽 (芝生、樹木、植栽等)

水路

進入不可

工事中

*個人差によって表記内容と差が出る場合があります。



デザインのポイント / design point

アクセス経路をわかりやすく表示しています
車椅子対応の入口・スロープを明記するなど、バリアフリーに関する情報を優先して掲載し、通行しやすい道をはっきりさせることでアクセス経路をわかりやすく表示しています。

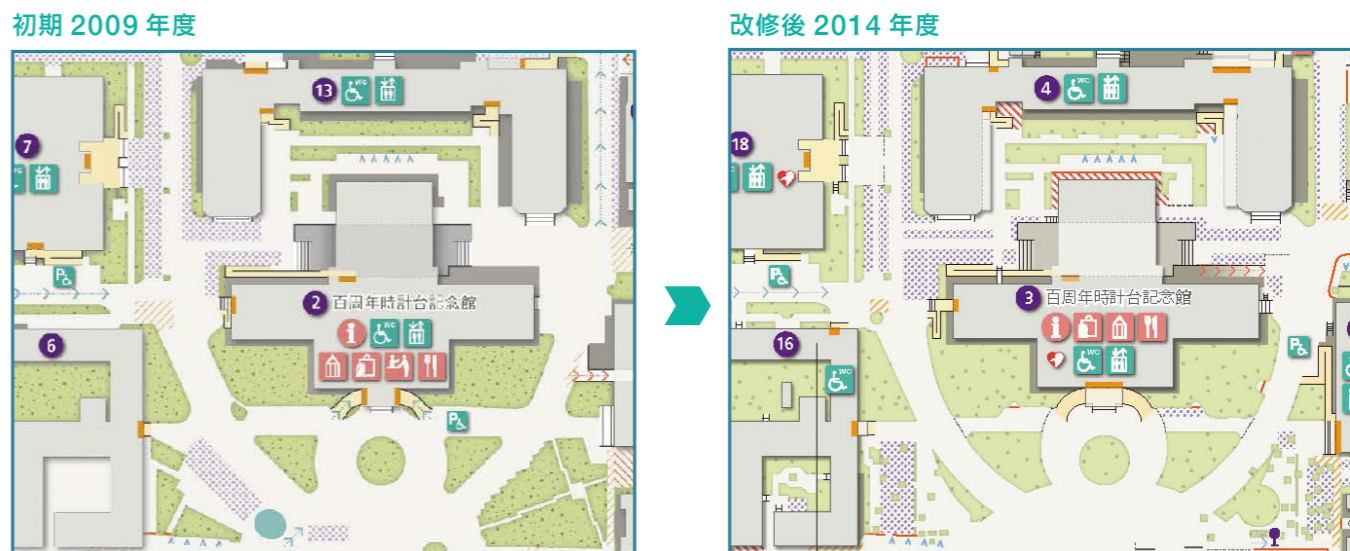
文字に頼らない直感的な表現を目指しています
情報の複雑化を避けるため、できるだけ一目見てわかるマークや記号を多用し、文字に頼らない直感的な表現を目指しています。

アクセスの支障になりやすい坂や段差などをわかりやすく表示しています
坂や段差をはじめとする、車椅子利用者にとってアクセスの支障になりやすいバリアを、わかりやすく掲載しています。

更なるキャンパスのアクセス向上には現状の環境チェックや改善を継続的に行うことが大切です。
利用者がアクセスできるか?
というユーザー視点に基づいた整備指針が必要です。

フリーアクセスマップ新旧比較 「施設改修とバリアの変化」
フリーアクセスマップの可視化を通じて、また施設の改修のタイミングにあわせて構内のバリアを一つずつ取り除いてゆく努力が行われています。

i 詳しくは、こちらにお問い合わせ下さい
京都大学学生総合支援センター
障害学生支援ルーム
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL : 075-753-2317 FAX : 075-753-2319



- 入り口部分でのスロープの設置やドアの変更など、建物へのアクセスのしやすさが向上しています。
- 路面そのものの悪路を取り除く整備や仮設スロープの設置などの対応が行われています。
- 駐輪においても整理が進み、動線をふさいでしまうなどの問題も減少しています。



Working Group

ワーキンググループでの会話から

つながりのあるキャンパスづくりを目指して

より使いやすい、つながりあるバリアフリー化はどうあるべきかを理想として掲げていく必要があります。学内有識者、施設担当教職員で構成されたワーキンググループを通じて能動的な意見をとり入れ、より良い環境づくりに向けバリアフリー化のありかたを模索してゆきます。



青木 健次
学生総合支援センター長

定年を目前にしてセンター長としてこのようなプロジェクトに関われたことを嬉しく思います。歳をとるのも有り難いことで、やっと少しだけ障害者の目でキャンパス内を見渡すことができるようになりました。その結果、点字ブロックが様々な仕様・規格で(それぞれは合法的なのだろう)キャンパス内で統一されていないことに気がついた。車椅子利用者用のスロープも景観やデザインの都合なのだろうが、あまりにも目立たない。せめてキャンパス内では統一したものにする必要はないでしょうか。これが老人初心者からお願いします。



林 達也
障害学生支援ルーム室長/
人間・環境学研究科 教授

障害学生支援ルームでは、障害のある学生の修学上の支援や相談を行うことをもっとも大事な業務として位置付け、日々精力的に活動しています。しかしこれと同時に、教職員の方々や、さまざまな形で本学への関わりが生じる学外の方々に対しても、直接的・間接的の支援につながる活動を広く行っていきたいと考えています。これらの活動を、質が高く、発展的に継続してゆくためには、専門性を持ったスタッフの安定的拡充が必須です。当ルームへのなお一層のご理解とご支援をいただきますよう広くお願いを申し上げます。



吉田 哲
工学研究科 准教授

キャンパスで近年整備される個々の建物の中では、条例の規制や関係者の尽力もあり、移動困難を生じさせるバリアは随分少なくなっています。しかし、個別の建物に生まれたユニバーサルな(移動)空間が、そのすぐ外にある屋外空間や隣の建物、そして学外に繋がっていかないのが、移動困難者が日々直面する本キャンパスの現実でしょう。他の人の介助が手近に得られない場合であっても、自力で移動できることをより多くの人に保証するべく環境条件を整えるのがこれからの大学であり、屋外を含めた公共空間の果たすべき責務です。そこへ向けた第一歩に今このレポートで立ち会えることを大変嬉しく思います。



齋喜 徳史
学務部 学生課長

京都大学は、国の教育機関として、学生や教職員だけでなくだれもが使いやすい環境を整備する必要があります。しかし、例えばキャンパス中には自転車が増え、通行しにくい区域も存在します。構内施設の改善を図り、自転車利用者が走行マナーや駐輪方法などに気をつけることで、より環境改善が図られると思います。キャンパスのバリアフリー化に向けては、ハード面の整備だけでなく、大学の構成員ひとりひとりが意識を変え、各部署が連携して改善を図ることで、すべての人にやさしい京都大学に生まれ変わっていくことになると思います。



野村 俊介
施設担当事務職員

建物の新築・改修時にバリアフリー対応・周辺環境整備を進めることによって、10年前に比べると随分構内環境が改善されましたが、社会的要請の高まりもあり、まだまだ十分とは言えないのが現状です。多様性に対応できる施設整備が望まれる一方で、財源確保の問題や建物毎の諸事情により、ソフト面での対応等が求められるところについては、今後検討が必要な課題だと思います。キャンパスの将来像を描く「キャンパスマスタープラン」にアクセシビリティの視点を盛り込むことで、施設担当者・建物使用者と継続的な意識共有を図り、更なる改善に努めたいと思います。



堀田 浩志
施設担当事務職員

施設整備のハード面では、「京都市建築物等のバリアフリーの促進に関する条例」や文部科学省の整備方針がありますが、多くは建物個々に求められる基準です。建物間の誘導では、単につなぐだけでは機能的にも視覚的にも混乱すると思うので、樹木や駐輪場といった物理的障害をうまく回避することも合わせて、どこをつなぐのかの検討が必要と思っています。教育や研究、あるいはキャンパスライフといった普段の活動の中で、どのような事が求められているのかを整備につなげられたらと思います。

おわりに

キャンパス アクセシビリティ レポートへの期待

京都大学で障害学生支援の専門窓口が設置されたのは2008年4月でした。それ以降、個々の学生のケースに向き合うなかで、学内のバリアフリー状況についても部分的に知る機会が生まれました。長い歴史があり、貴重な学び・研究の場であるキャンパスが誰にとっても使いやすい施設・設備であるためには、バリアフリーという観点も必要であることを強く実感したものです。しかしながら、広大なキャンパスのなかで普遍的なバリアフリー化を目指すことの難しさを同時に感じていました。

今回のワーキンググループの目的は、京都大学におけるバリアフリー状況を「アクセシビリティ」という視点で整理・議論することで、中長期的な見通しをもった整備計画への提言を目指すということです。そういった意味においては、可能な限り現状を整理し、課題はどのようなものかを分析できたということは大きな成果だと思っています。特に、当事者である学生たちとの座談会では、ハード面の課題にとどまらず、ソフト面での改善が必要であることがよくわかりました。さらに、今後、ハード面を整備するにあたって、実際にユーザーが存在していることを、担当者がより意識しなければならないと実感できた機会でもありました。ご協力いただいた学生の皆さんには、改めて感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

このプロジェクトを実施してわかったことは、バリアフリーのことだけを意識していても、スムーズな現状の改善にはつながらないということです。もちろん、一時的なものとしては有効なものとなりますが、本質的な改善には様々な要素をクリアする必要があります。また、学内交通や環境配慮、グローバル化などの課題と一緒に考えていくことの必要性も感じています。

バリアは存在しています。ただ、そのことを能動的に見ようとしなければ、まるで“無いもの”のように認識されてしまうかもしれません。多くの人にとって“無いもの”と認識されてしまうバリアは、障害のある学生たちにとって学生生活の大きな妨げになります。全ての困難やニーズをハード面の整備だけで補うことはできませんが、バリアフリー化を促進していくことは、とても意義深いメッセージとして受けとめられます。この度のプロジェクト成果が、一部の人だけでなく、多くの人と共有できるものになれば幸いです。

(村田 淳)

京都大学 キャンパス アクセシビリティ レポート

KYOTO UNIVERSITY CAMPUS ACCESSIBILITY REPORT

ワーキンググループメンバー

- 青木 健次 (学生総合支援センター長)
- 岩隈 美穂 (医学研究科 准教授)
- 齋喜 徳史 (学務部 学生課長)
- 野村 俊介 (施設部 施設企画課)
- ◎林 達也 (障害学生支援ルーム室長 / 人間・環境学研究科 教授)
- 堀田 浩志 (施設部 施設企画課)
- 村田 淳 (障害学生支援ルーム チーフコーディネーター 助教)
- 吉田 哲 (工学研究科 准教授)

※50音順、◎座長、○事務局長

協力

- 安井 絢子 (文学研究科 博士課程)
- 橋詰 健太 (理学研究科 修士課程)
- 大原 調 (農学部 学部生)
- 西尾 宗一郎 (理学部 学部生)

事務局

- 企画・発行
京都大学 学生総合支援センター障害学生支援ルーム：村田 淳 市川 友佳子
- 編集・デザイン
株式会社 GK 京都：卜部 兼慎 酒元 菜摘

2015年 3月 発行